

第10回全国書写書道伝統文化大会  
令和3年度全国年賀はがきコンクール

主催 一般社団法人日本書字文化協会  
共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構  
後援 文部科学省他

【中央審査委員会賞】

埼玉県・大東文化大学1年  
大平 知雅

「流れ」を作る極意は努力と楽しさ

私は作品を仕上げる際に上手く書くよりも流れに任せて書くようにしている。個々の字に関しては、先生に指導されたことを流れに組み込ませていくようにして、直していく。あくまで、私の中で一番優先しているのは流れだ。以前までは、太さや細さ、かすれ、筆圧など意識して表していたが、今回は、以前の取り組みが活かされ、その点は、あまり意識しなくても表わせるようになっていた。そのため、今回の作品は自分のペースがより表れた作品になったと思う。また、私が長く就いている先生は、私が納得した作品であっても、次から次へと要点を伝えてくださる。そのため、私も近頃は、納得する作品ができて、時間があるならできる限り多くの作品を仕上げるようになった。その一つ一つの作品を適当に書くのではなく、前よりも良いものになるように心がける。前のよりも良いものになったかは確実とはいえないが、自分の中で良いものになったと思えば、その後に書くものも心地よく書くことができる。無駄に神経を使って書くと気が張ってしまい、硬い字になり、流れを出すことができないので、楽しんで書くことが1番かなと思う。